

当院の臨床指標

～ 特定医療法人 雄博会 千住病院 ～

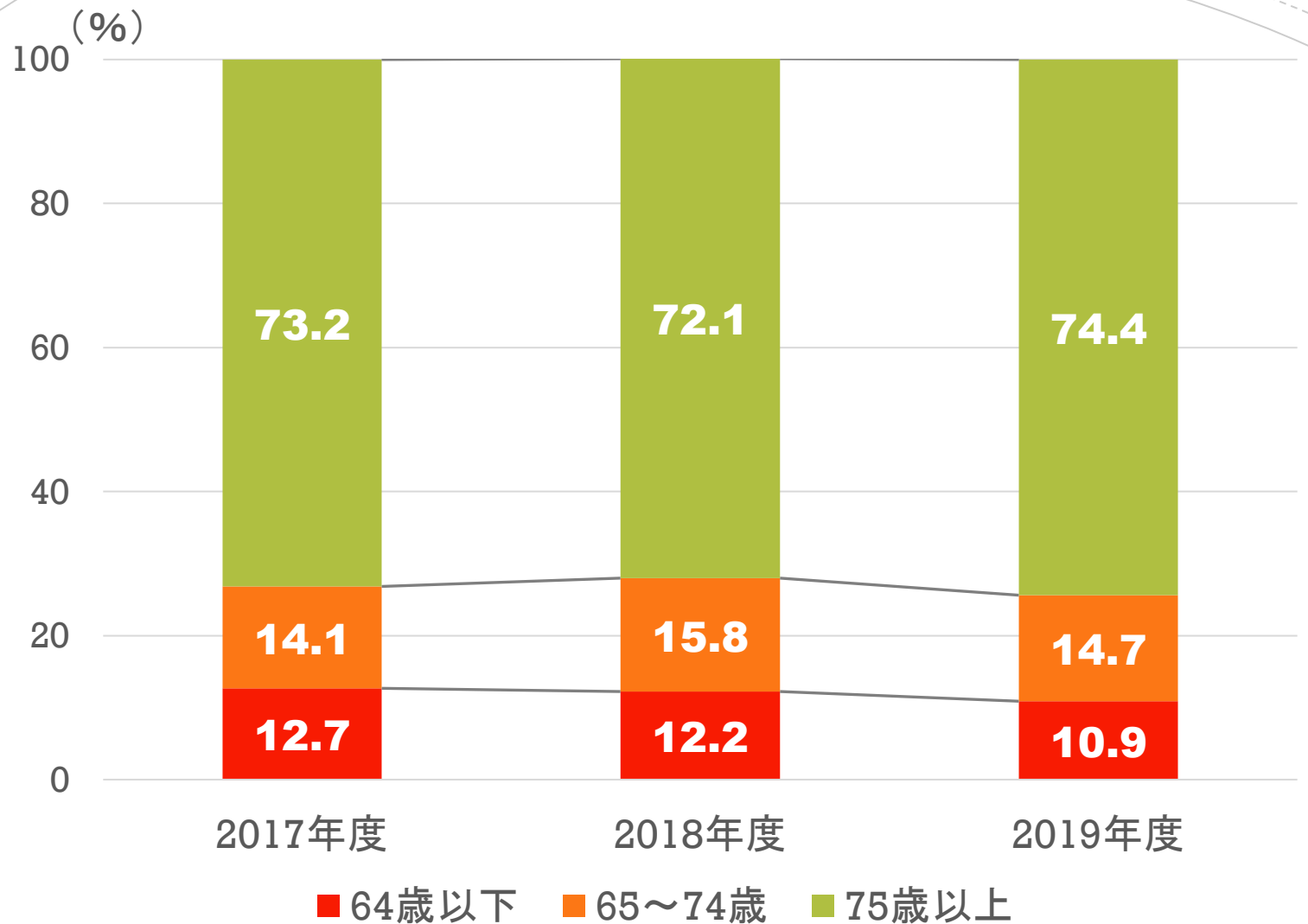
臨床指標 とは

- Clinical Indicator (臨床指標)とは、病院の機能や診療の状況などについて、様々な指標を用いて具体的な数値として示したものです。

指標を分析し、改善を促すことにより、医療の質の向上を図るとともに、患者さま、ご家族、あるいは地域の方々にとって分かりやすい医療情報を提供することを目的としています。

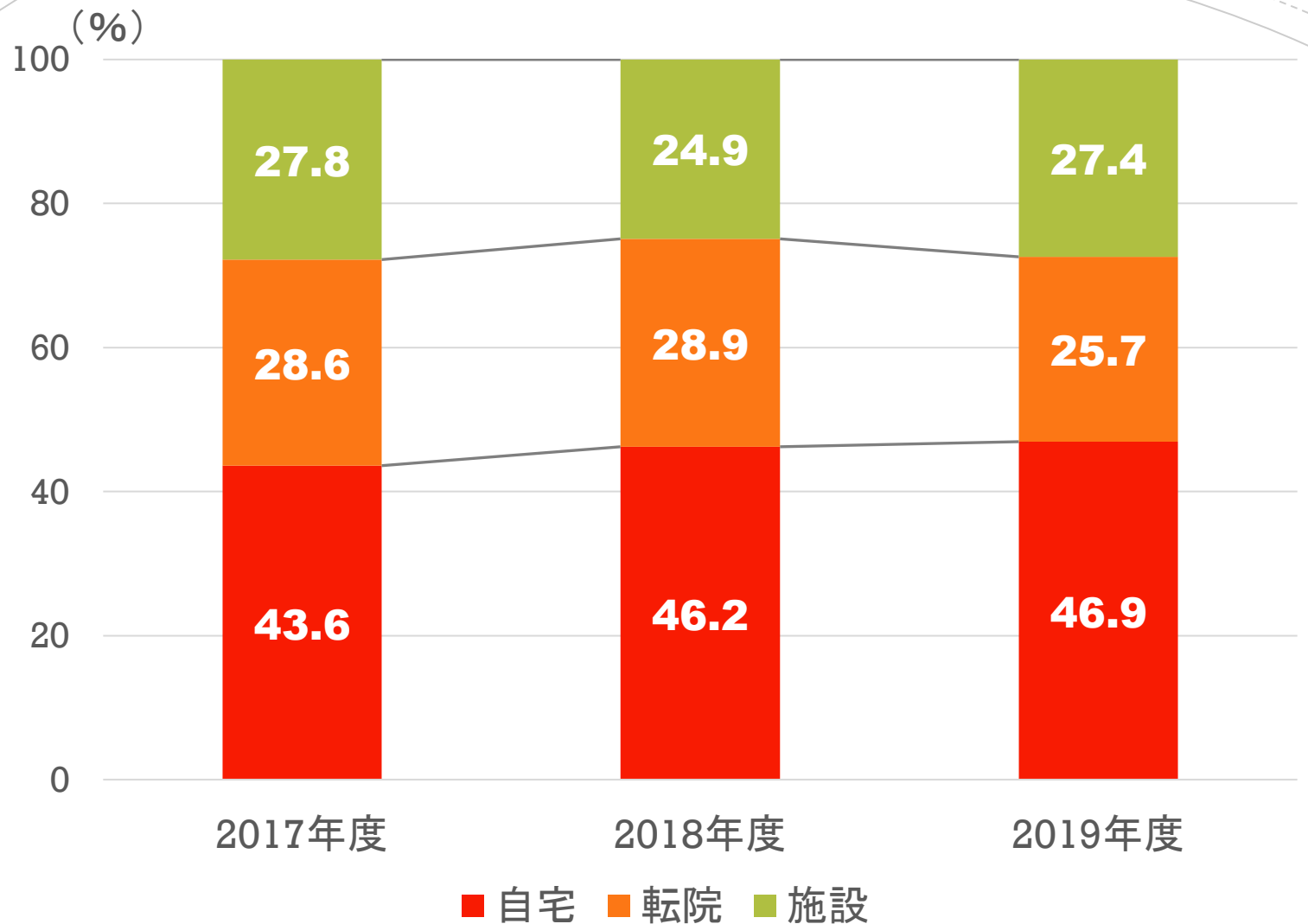
- しかし、この中には一日平均外来患者数や入院患者数など、直接的に医療の質を示すとは思われない指標も含まれています。
- そこで、より医療の“質”に着目した指標も測定・公表するようになりました。これをQuality Indicator(医療の質の指標)と言います。

退院患者 年齢別割合



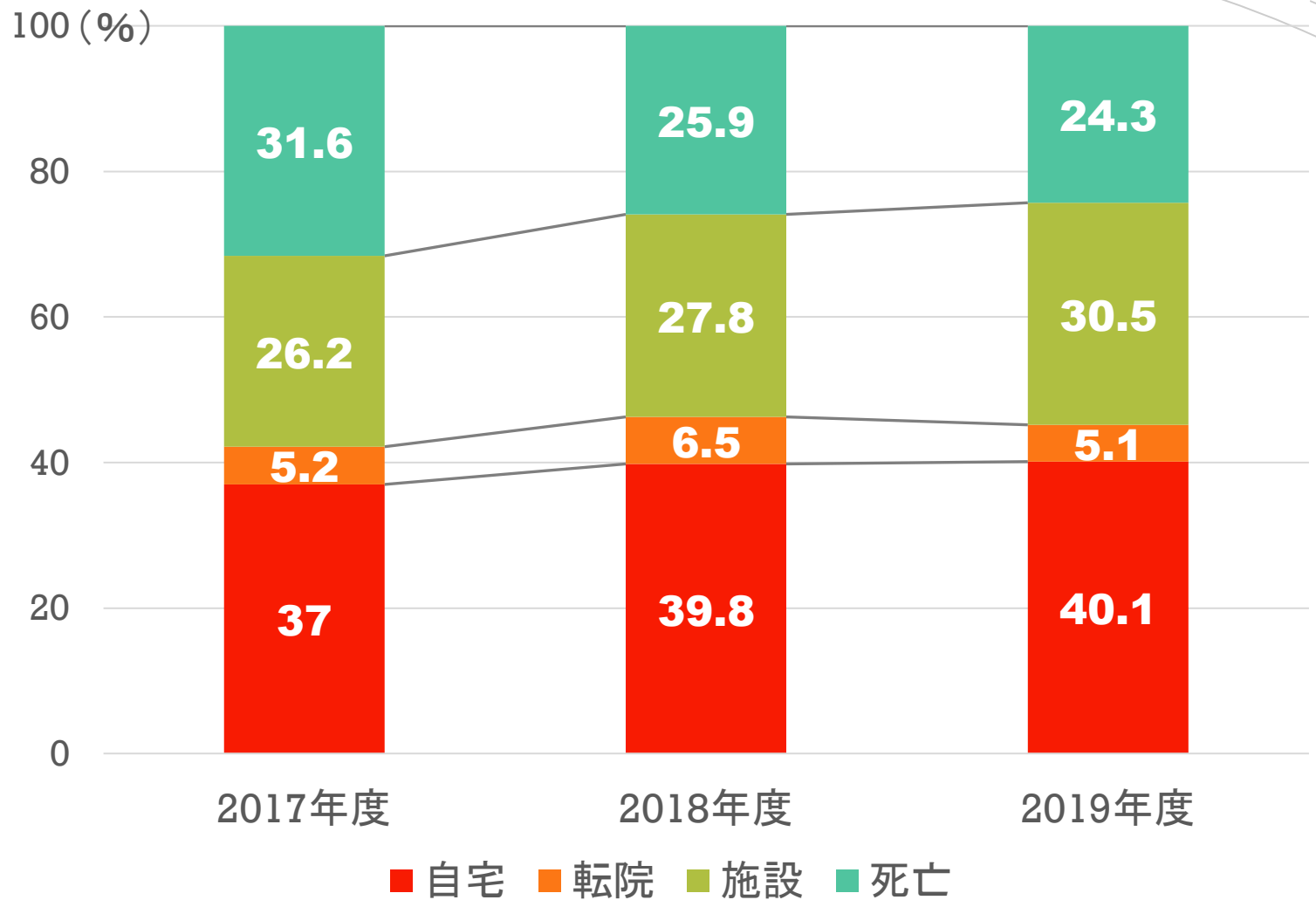
これは、当院を退院した患者さまの年齢別による割合です。
当院の特徴として、患者さまの7割以上は75歳以上の、いわゆる『後期高齢者』
と言われる年齢層の患者さまとなっています。

入院元 の割合



これは、当院に入院した患者さまが、『どこから入院となったのか』の割合です。
当院に入院した患者さまの4割以上は、自宅からの入院となっています。
自宅から以外としては、他の医療機関からの転院と、有料老人ホームなどの施設からの入院です。

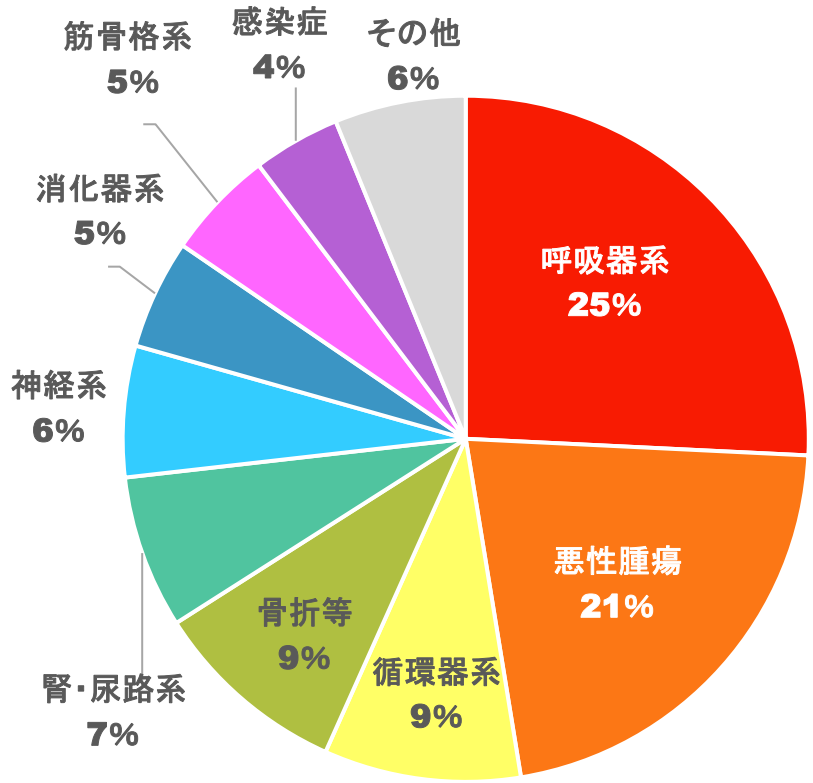
退院先の割合



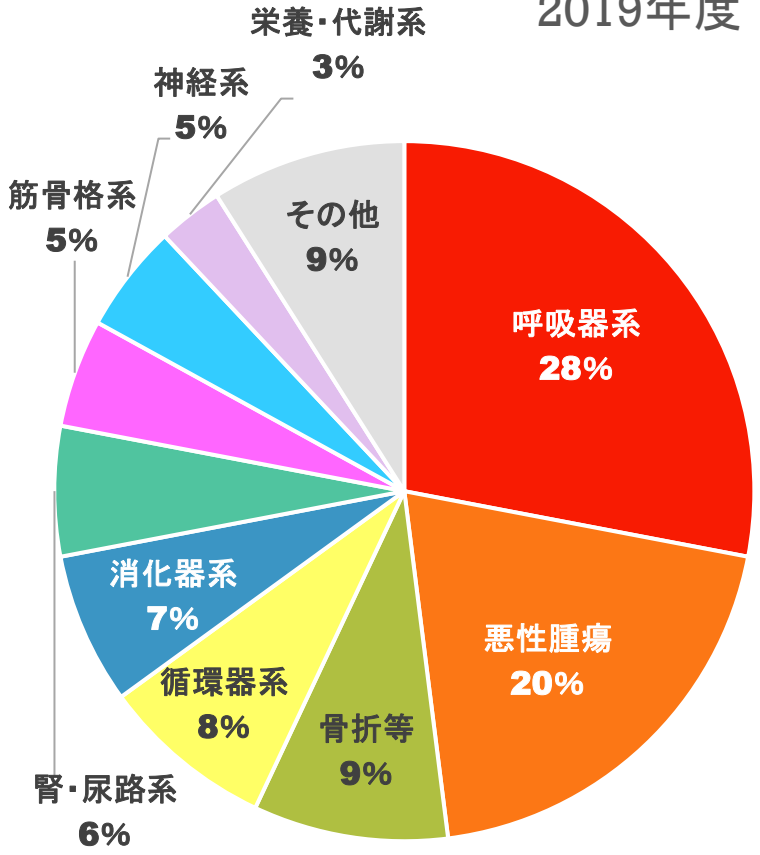
これは、当院に入院した患者さまが『どちらへ退院されたのか』の割合です。当院を退院した患者さまの4割近くは、自宅へ帰られています。3割弱は有料老人ホームなどの施設へ。後は死亡退院となっていますが、年々死亡退院される患者さまの割合は減少してきています。

疾患別 退院患者割合

2018年度

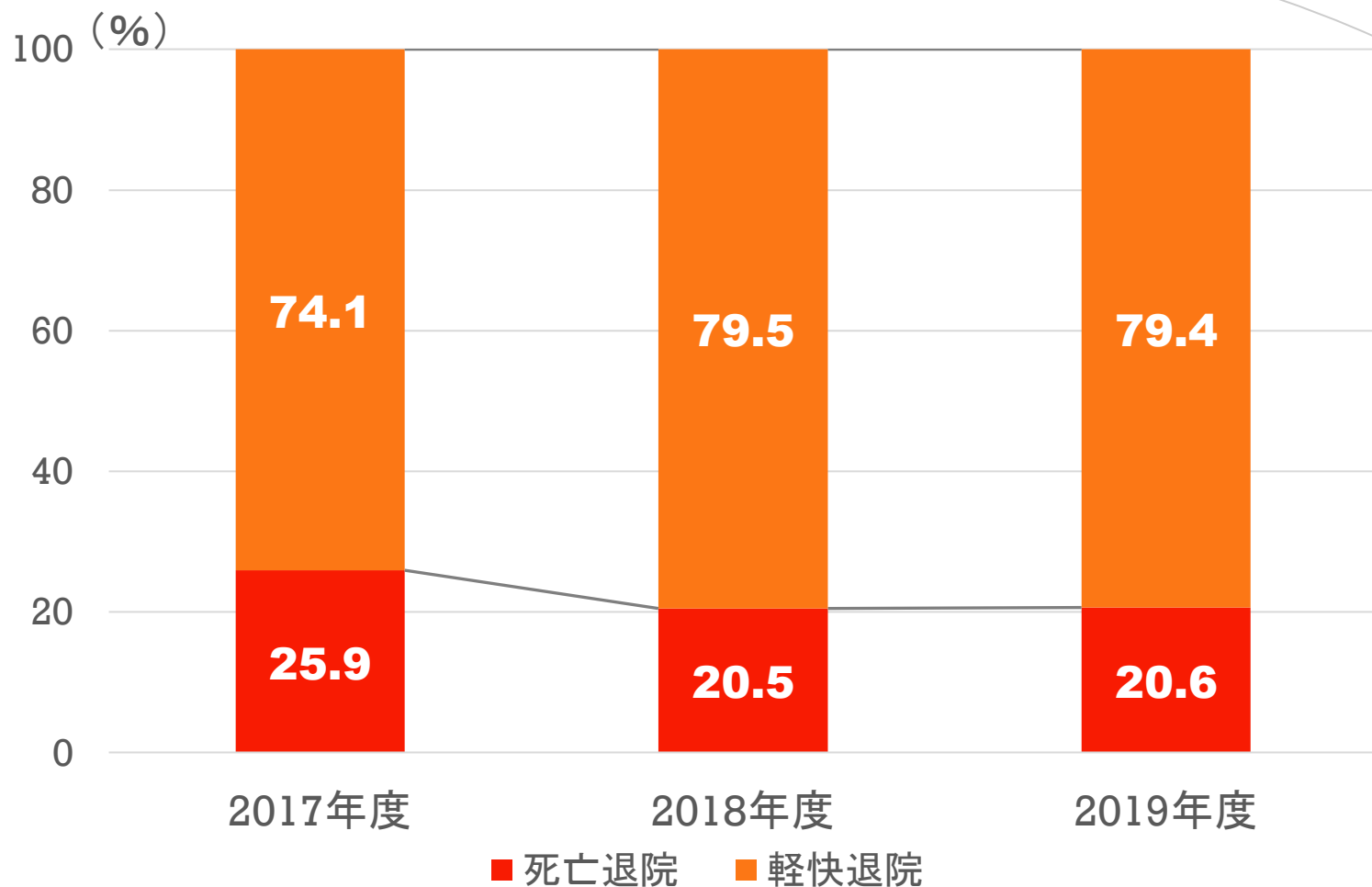


2019年度



これは、当院に入院となった患者さまの病気別による割合です。
 当院は、呼吸器(肺など)系の病気と、悪性腫瘍(がん)で入院していた患者さまが多く、合わせると半数近くになるのが特徴です。

肺炎で入院した 患者様の 転帰の割合



これは、肺炎が原因で当院に入院された患者さまが、元気になって退院されたのか、あるいは、残念ながら死亡されて退院となったのかの割合です。2018年度からは、肺炎で死亡退院される患者さまの割合が減ってきており、ご高齢の患者さまが多い中でも、7-8割の方は元気になって退院されています。

治療には、乱用による耐性菌の発生が心配されている抗菌薬を使用しますが、効果を見ながら使うべき時にはきちんと使用し、しかし漫然とは使わないという体制で肺炎治療を行っています。

ADL

とは

- ADLのAはアクティビティー（動作）、DLはデイリーリビング（日常生活）の略です。

- 日常生活を送るために最低限必要となる、以下のような日常的な動作を、自分では出来ない=0点とし、できるレベルに応じて点数を付け、その合計がADLとなります。

起き上がる動作



乗り移る動作



平地や階段での移動



食事



着替え



排泄



入浴

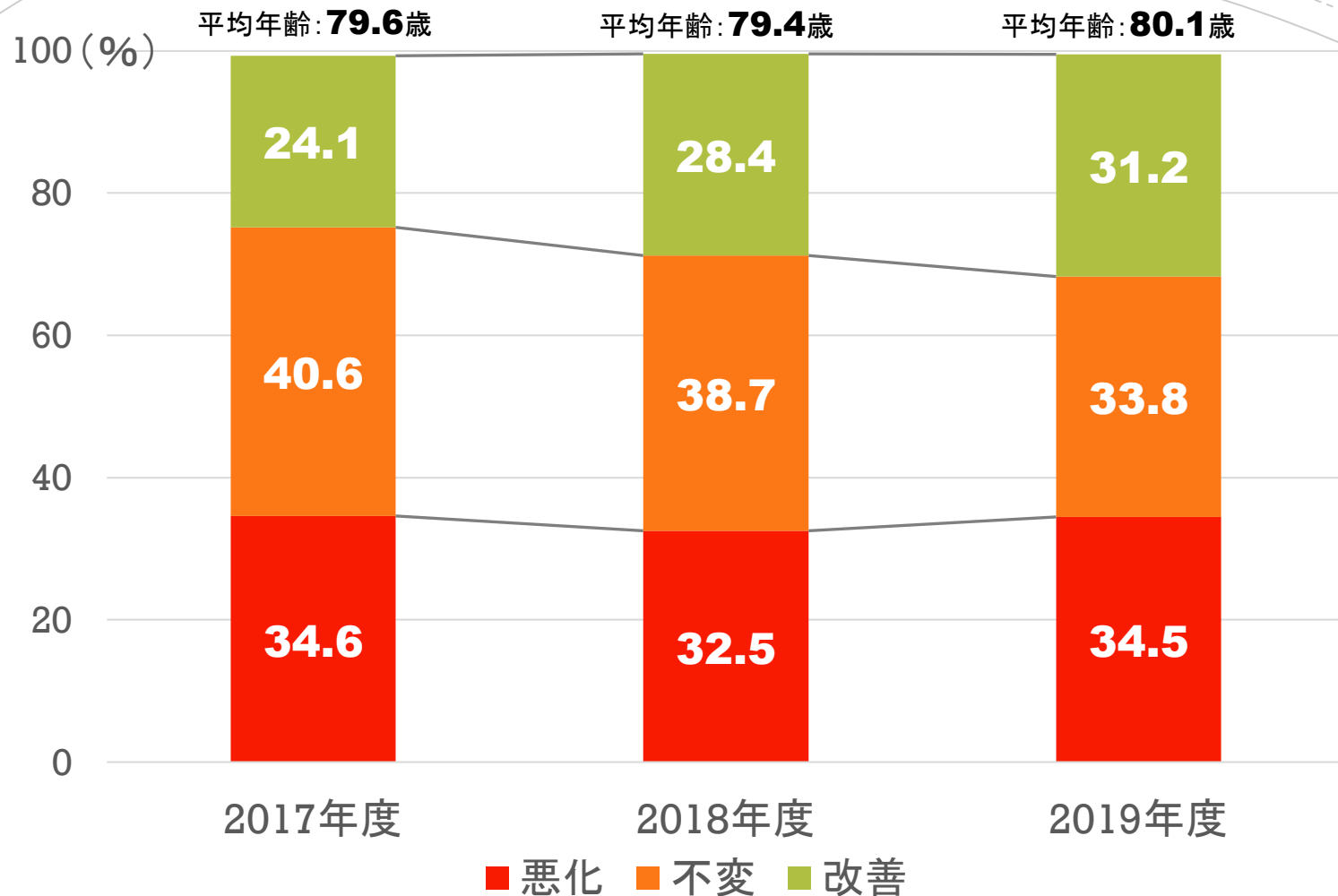


整容



- 高齢者や障害者の方の、身体能力や日常生活のレベルを図るための重要な指標です。
- 当院では、入院時と退院時に、患者様のADLを測定しています。

入院時と退院時の ADLを 比較した結果



これは、入院時と退院時のADLを比較した結果の割合です。

退院時に、入院時と比較してADLは変わらなかった(不変)という患者さまの割合が減り、その分、良くなった(改善=ADLの点数が上がった)という患者さまの割合が年々増えてきています。

ご高齢の患者さまが多い当院ですが、リハビリや食事による栄養管理を通じて、できるだけADLを高める努力をしています。

入院患者様の 転倒・転落率

これは、当院に入院している間に、院内で転んだり、ベッドなどから転落した患者さまがどれくらいいらっしゃったかの割合です。入院中体力が落ちてしまい、足がもつれて転ぶなどしてケガをしてしまうと、入院が長引いたりしてしまいます。

医療機関では、この転倒・転落を起こさないよう様々に対策を取り、患者さまが安全に入院生活を送ることができるよう、日々努力しています。

$$\text{転倒・転落率} = \frac{\text{1年間の内、院内で転倒・転落した患者様の数}}{\text{1年間に、当院に入院した患者様の総数}} \times 100$$

2018年 転倒・転落率 = 0.316% (3.16%)

厚生労働省「医療の質の評価・公表推進事業」公表の数値【2018年度】
【事業参加病院 = 全国97病院】

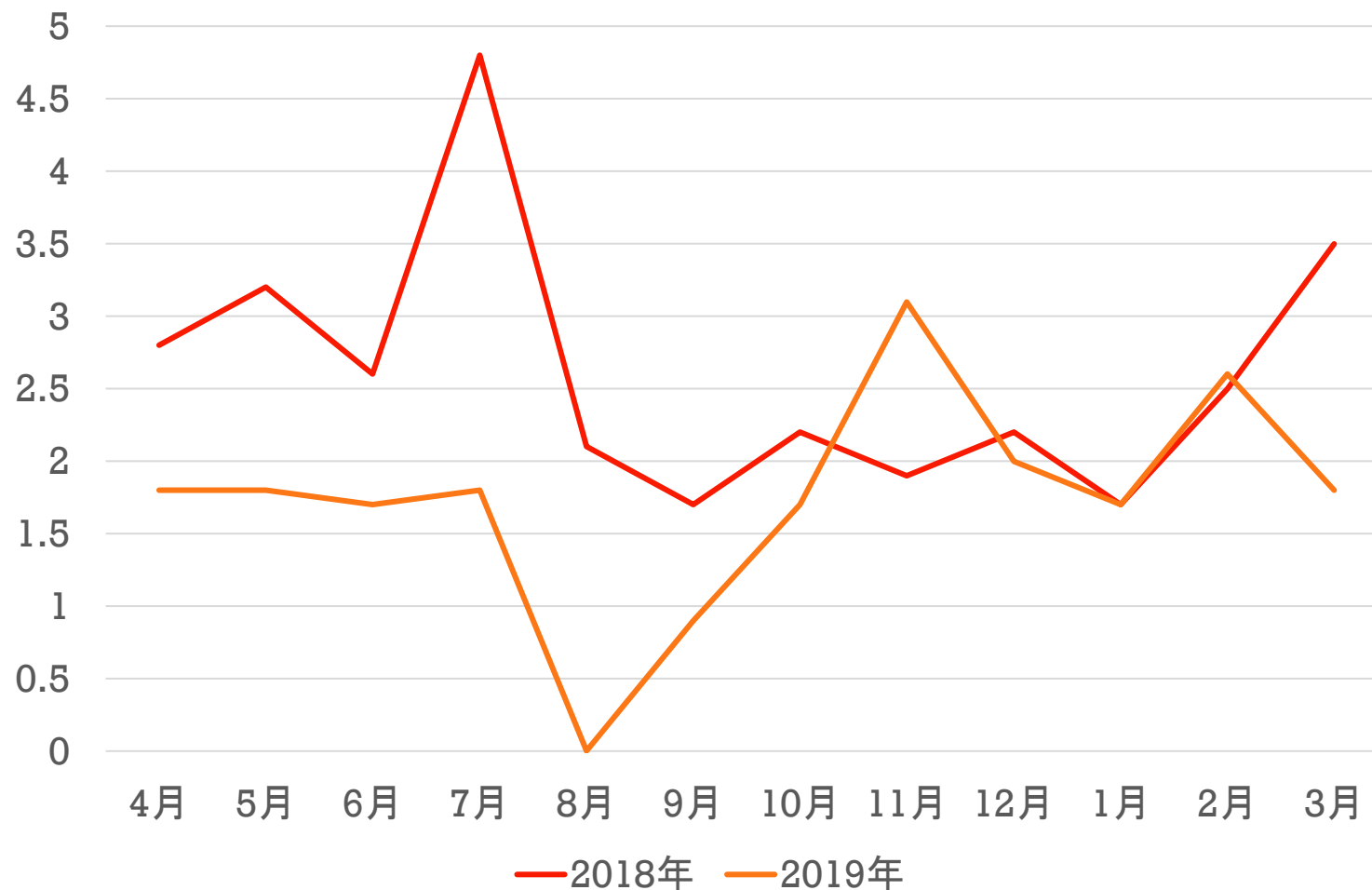
最小値 = 0.226% (2.26%) 中央値 = 0.467% (4.67%) 最大値 = 0.802% (8.02%)

2019年 転倒・転落率 = 0.316% (3.16%)

【2019年度】 まだ、数値の公表はなし



褥瘡 (床ずれ) 新規発生率



これは、当院に入院中の患者さまに、どれだけ新たに褥瘡(床ずれ)が発生したかの割合です。2018年(赤線)よりも、2019年(オレンジ線)の方が、新たに褥瘡(床ずれ)が発生した割合が下回っている月が多くなっています。マットを工夫したり、看護師や管理栄養士などがチームとなって巡回して栄養面からもアプローチし、褥瘡(床ずれ)が出来ないように日々のケアに務めています。